

種まき 通信No.74

いつも市民派 ずっと無党派
小林じゅん子 議会だより

事務所 〒399-8301長野県安曇野市穂高有明2104-10
Tel. 0263-83-4387 (090-4546-3496) Fax. 0263-83-4938
http://junko.voicejapan.net/ メールはjunko@childnet.ne.jp



発行日：2021年1月20日
発行者：小林純子

◆安曇野市議会12月定例会小林じゅん子の一般質問◆

- Q1. 給食の目標 見直し必要では～食材の安全性に配慮を
- Q2. 新型コロナ後の未来 安曇野の農業が目指すべき姿は

安曇野市教育委員会は平成20年に合併後の安曇野市の学校給食として、共通の運営方針や目標などを具体的に示した安曇野市学校給食理念(目標)を制定。

- 1、安心・安全でおいしい給食づくり
- 2、食育の推進
- 3、地産地消の推進
- 4、手作り給食の実施
- 5、季節感がある地域の伝統食の提供
- 6、栄養バランスの取れた給食の提供

制定から12年、学校給食理念に掲げた目標について、成果と課題について質問しました。ここでは、目標1と目標3について報告します。

Q1【小林質問】 学校給食の目標6項目のうち、安心・安全な給食と地産地消について聞く。パン用小麦は現在国産小麦90%まで増え、輸入小麦は10%に減ったが、※ブレハーベストの輸入小麦から除草剤成分が多く検出される現状から、パンを100%国産小麦にしたいがどうか。

【教育部長】 現在、県産45%、北海道産45%、外国産が10%。令和3年1月から県産50%、北海道産50%で100%国内産小麦のパンになる。

【小林質問】 安心・安全でおいしい給食づくりは「近代的な施設で衛生管理の徹底を図る」だけでは不十分。いまや、農薬、食品添加物、遺伝子組み換え、ゲノム編集等々、子どもたちの心身の健康への影響が懸念される。安心・安全は施

設や衛生管理だけでなく、食材そのものの安全性に関する理念が必要では。

【教育長】 学校給食理念・目標の制定から20年、昨今の様々な状況を勘案し、見直しが必要と認識している。本格的な検討に着手する。

Q2 農業が新型コロナ後の世界を救う

【小林質問】 新型コロナを契機に、従来の食農システムや大規模流通よりも、有機農産物を通じた産地と消費者のより近い関係性(地産地消)が注目されている。持続可能な食農システムの担い手として、小農や家族農業が再評価されているが。

【農林部長】 農地を担い手などに集積し、農地の維持と、農業の規模拡大によ

有機栽培は技術的に難しい 手がかかる 営農的に成り立たない!?
～学校給食で有機米を使うのは無理? いえいえそれは違います!～

ちょうど1年前の一般質問で、オーガニック給食の取り組みについて取り上げました。「学校給食の理念や目的から、有機無農薬栽培の農産物を使用した、いわゆるオーガニック給食についての見解は?」と尋ねたところ、教育長の答弁は「オーガニックの考え方に基いて栽培された無農薬有機農産物を、子どもたちに提供することのよさは十分認識しているが、学校給食では安定的な供給や価格の問題があるので困難ではないかと思う」ということで、実現はすぐには困難であるとしても、オーガニックのよさは十分理解されていると見ました。

ところが、具体的に有機米を米飯給食に使う話になると、教育部長(当時)からは「オーガニックの農産物を使うには、虫などの混入を避ける等の安全性の確保の課題もあり、有機無農薬米の導入は考えていない」と、事務的な答弁で驚いたものです。

学校給食の理念や目的の第一に掲げられている「安心・安全でおいしい給食づくり」は、近代的な施設で衛生管理の徹底を図ることであって、食材・食品の安全性には考えが及んでいないこと(おそらく、安全基準への誤解があるのでしょうか)、大きな問題を感じました。

その一般質問から1年、この間に、お

中止します!! 議員活動報告会と まちづくりトーク

これまで開催のお知らせをしてきましたが、コロナ第三波の感染拡大が心配な状況になりましたので、1月14日時点で開催中止といたしました。(この次は4月)



日時：1月24日(日)午後2時
場所：穂高公民館(穂高会館)

る経営の安定化を図るという柱に変わりはないが、小規模農家の存在も大切で、一定程度の小規模農家を残していかなければならない。

隣の池田町、松川村、伊那の松川町など、有機給食に取り組み始めました。国も学校給食に有機農産物を提供する場合の補助を打ち出し、県では有機農業推進プラットフォームの活動に力を入れてます。安曇野市では、このような周辺状況を勘案して今後はどのような学校給食を目指していくつもりか、質問しました。

食材そのものの安全性ということでは、有機栽培の(化学肥料や農薬を使わない)食材を多く取り入れていくことが、子どもたちの健康に非常によいという観点から質問してきました。それは、また農産物を生産している方々にとっても有機農業への生産意欲にもつながるので、有機食材を給食に取り入れていくという観点から、目標を設定してもらいたいと思いました。

1 日8,000食の米飯給食を全て有機米、有機野菜にするということには5年、10年かかる大事業だとは理解していますが、それにつけても、始めの一歩を踏み出す、これが大事です。学校給食の目標に安全性の高い食材や有機農産物を使用する。といった一項を加えることが非常に大切だと思います。



「小麦の収穫前に除草剤を小麦畑に散布することで小麦を枯らし、収穫を容易にする」こと。

▲「農民連食品分析センター」が国内で販売されている小麦粉やパンなど小麦製品の農薬残留検査を行ったところ、そのほとんどから農薬の成分グリホサートが検出された。国内産の小麦からは検出されていないことから、ブレハーベストの輸入小麦に原因があると思われる。

種まき通信No.74

「種まき通信」の郵送を希望される方は電話・メール等でお申し込み下さい。
 ◆「種まき通信」は年4回発行しています。そのうちの1回は新聞折込にてお届けしています。毎号の郵送をご希望の方はお申し出ください。

この数字は？ 5? 5G

5Gとは移動通信システムの5th Generation、つまり第5世代という意味です。

昨年6月の議会から継続審査になっていた「5G導入に際しての慎重な自治体対応を求める陳情」は、12月議会で不採択（否決）となってしまいました。

スマホやWi-Fiの普及に何の疑問も持たず便利に使っている人が多いですが、電磁波による健康被害は無視できない状況になっています。実際に被害を訴えている人も多く、世界に目を向ければ、5Gに厳しい規制をかけている国も少なくありません。

従来の基地局アンテナは半径数kmの距離で建てられていたのに比べ、5Gのアンテナは半径約800m毎の設置が必要なため、多数のアンテナが建つことになります。つまり、これまでより多くの人々が、近距離から電磁波の影響を受けることになります。

この陳情は、知らないうちに5Gアンテナが建つことが無いよう、行政の関与を求めたもので、私は大賛成。不採択は残念でした。

既に市内3か所に5Gアンテナ設置が決まっています。まだ先の話、ではないのです。どんどん増えていくでしょう。心配です。

◆豊科重柳地区活性化（開発）に関する陳情◆

賛成多数で採択と決定 松糸道路ルート決定もあり、市の北部地域の活性化を図る一つと考えれば、時宜を得た開発となる。じっさいに進出したい企業があり、地権者が揃って開発に同意していることを重く受け止め、採択に賛成する。という意見が多数を占めました。小林じゅん子は採択には反対しました。以下、その反対討論の要約です。

重柳地区は、優良農地として安曇野の農業振興はもとより、環境保全や観光資源としても重要な景観の面からも非常に重要な場所である。その一方で、実際にそこで営農する方々はといえば、高齢化により自ら農地を耕しているという農家はなく、ほとんどが認定農業者に任せている。その認定農業者の方々も高齢化している。こうした後継者不足や営農環境、経営の厳しさから、この農地を守っていくことに非常に不安を感じているということも理解できる。

しかしながら、この現状を全て諦め受け入れて、新たな開発にという点については、いま一度、立ち止まってしっかりと考え検討し直す必要があるのではないかと。守るべき農地と開発すべきところのメリハリをつけていくのがよい、という考え方では農地はなし崩し的に消えていってしまう恐れがある。これは、単に農業者だけの問題ではなく、安曇野に生きる市民すべてに関わる問題で

あり、安曇野市が目指すべきまちづくりと農業の方向性の問題だ。これまでグローバル経済の仕組みの中に農業も取り込まれてきたが、コロナ禍のこの1年を振り返ってみると、農業は私たち人間の本来の営みに不可欠なものであって、まさにグローバルの対極にある私たちの住んでいるその地域の中で完結する、持続可能な社会のための持続可能な農業を目指すところに来ている。

親元就農、1（アイ）ターン就農、定年帰農と多様な担い手が育っている安曇野市では、多様な地域農業の可能性に希望を託したい。現状、この地をマスタープランに位置づけるには制度上のハードルが高く、農地転用の手続などもそう簡単ではない。農地として守っていくために様々な今後の農業の施策に期待する中では、これまた時間がかかることではあるが、そういった方向に期待をして、今すぐに、この農地を開発するというこの陳情の採択には反対する。

◆賛否が分かれた議案（評決の結果）

議案番号	議員名	議決日	議決結果																					
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
議案第115号	安曇野市の適正な土地利用に関する条例の一部を改正する条例	12/18	○	×	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	
議案第116号	令和2年度安曇野市一般会計補正予算（第7号）	12/18	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	
議案第120号	公の施設の指定管理者の指定について（安曇野市豊科社会就労センター）	12/18	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	
議案第121号	公の施設の指定管理者の指定について（安曇野市穂高社会就労センター）	12/18	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	
議案第122号	公の施設の指定管理者の指定について（安曇野市三郷社会就労センター）	12/18	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	
議案第123号	公の施設の指定管理者の指定について（安曇野市明科社会就労センター）	12/18	○	×	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	
議案第127号	公の施設の指定管理者の指定について（安曇野市豊科交流学習センター）	12/18	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	
陳情第5号	第五世代移動通信システム（5G）導入に際して慎重な自治体対応を求める陳情書	12/18	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	
陳情第10号	安曇野市豊科重柳地区活性化（開発）に関する陳情書	12/18	○	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	
陳情第12号	安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための陳情書	12/18	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	
陳情第14号	委託業務に関する陳情書	12/18	×	×	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×		
議員提出第6号	国土強靱化予算の維持を求める意見書	12/18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議員提出第7号	安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための意見書	12/18	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	
議員提出第8号	日本学術会議の独立性の堅持を求める意見書	12/18	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	×	○	×	○	×	○	○	○	×	×	○	

議決に注目!!

◆一カ月及び不定例議会の最終日は、議論を尽くした議案について一人ひとりの議員が賛否を表明する日です。今回の12月議会では左表のように、多くの議員が賛否が分かれ、反対討論・賛成討論が活発でした。その発言数は43件にもなりました。安曇野市議会が始まって以来のことです。ぜひ、○×の内容をご覧ください。◆討論するのは年に1回か2回という議員が大半の安曇野市議会です。43件の討論があつて賛否が明快になったことは、市民の皆さんにちよっぴり胸を張れる気分です。◆なぜなら、全国には、討論もほとんどなく「異議なし」で議決していく議会が、実に多く存在するからです。